

平成 24 年 5 月 29 日

府市統合本部会議発言概要（大学関係）**○橋下市長**

- ・大学は人材養成機関の最たるもの。それを公立大学でしっかりやっていてもらいたい。慶応大学の湘南キャンパス（SFC）のように最初は何をするのかわからなかったが、何年後かには軸になっているというものに、是非チャレンジしてやっていただきたい。SFC の教授の方に勉強会に来ていただくと、厳しい競争にさらされて、先生方はみんな大変だと言っておられる。そういう大学にしていてもらいたい。
- ・シリコンバレーも 3～40 年かけながら集積したというぐらいのスパン。それには普通の総合大学的なものではなく、SFC のような強力な個性、特徴のある大学を参考にしてもらいたい。

○上山特別顧問

- ・府市大学統合は合理化ということではなく、十年、二十年先を見据え、大阪の成長戦略の非常に大きな柱として位置付けたい。今回の大学改革で魅力的な大学が創れば、全国から新しいことをやりたい人が大阪に来てくれてそのまま居ついてくれる。先端研究やノーベル賞というのは、国立大学でいいのであって、強い大阪、大阪成長のエンジンと成りうる人材を集め育てていく大学をめざすことが今回の柱である。
- ・スタンフォードや SFC は参考にはなるが、同じことをするわけではない。箱を造っても先生がついてくれないと成り立たない。とてもよくできる先生の流出を防ぎながら大学改革を行うことが難しいし、時間もかかる。

○堺屋特別顧問

- ・国立、私立含め、大阪の知的レベルの向上戦略の一つの柱に府市統合後の大学を位置付ければより良いのでは。

○余語特別顧問

- ・大学は産業政策と密接に結びついている。例えばシリコンバレーは、スタンフォード大学と表裏一体。大学政策は、高度な専門教育であり、そういうものは成長戦略の一つの鍵となる。